

第 125 回 花芽形成 1

■光周性という用語を説明せよ。

- ・ 日長（実際には暗期の長さ）によって花芽形成などが影響を受ける現象
- ・ フィトクロムが関係している

■限界暗期という用語を説明せよ。

- ・ 花芽形成に必要な暗期の長さ：長日植物では限界暗期「以下」、短日植物では限界暗期「以上」で花芽形成
- ・ 連続していることが重要
- ・ 光中断

■長日植物,短日植物,中性植物の例を挙げよ。

- ・ 長日植物：アヤメ、ダイコン、アブラナ、ホウレンソウ、コムギ
あ、やめて。抱いたら危ないポパイの子、ムギユ
- ・ 短日植物：オナモミ、アサガオ、タバコ、ダイズ、キク、イネ
女もみんな、朝からタバコ大好きでいいね
- ・ 中性植物：タンポポ、ソバ、トマト、ハコベ、ヒマワリ、トウモロコシ
タンポポのそばにトマトを運べ。暇なtomorrowに

■長日処理,短日処理という用語を説明せよ。

- ・ 長日処理：人為的な照明によって、暗期を短くする
- ・ 短日処理：覆いなどによって、暗期を長くする

■オナモミを用いた花芽形成のしくみを調べる実験と、その結果,結論について説明せよ。

- ・ 1枚の葉だけを短日処理：全体が花芽形成
- ・ 葉を除去し、全体を短日処理：花芽形成せず
- ・ 接ぎ木したオナモミの1枚の葉だけを短日処理：両方のオナモミ全体が花芽形成
- ・ 上記と同じオナモミで、環状除皮：環状除皮より先端部でのみ花芽形成
- ・ 以上より、刺激を受けとるのは葉であり、植物体全体に刺激を伝える物質が伝わること、その物質は師部を通るということが示唆される